

無口な後輩に無理やり記憶操作されて脳が溶けるほど溺愛されるASMR

2021 フルーツタルト

//トラック1

「先輩……あの……」

「今日は、急に、おうちに行きたいなんて言って……ごめんなさい。迷惑じゃなかったですか？……よかった……」

「私の家、親が厳しいから……。子供の頃から、お友達と自由に遊んだり、喋ったり出来なくて……。誰かを遊びに誘うなんて、あんまりしたことないから、慣れてなくて……。今日も、上手に言えなかったなって……反省してたんです」

「先輩はお友達じゃなくて……初めての恋人だから……。尚更……なんて誘ったらいいか、わからなくて……。私、ぎこちなかった……ですよ」

(間)

「えっと……それだけじゃなくて……いつもおうちにお邪魔するのも、申し訳なくて……。私の家に呼べたら、いいんですけど……。先輩のこと、お母さんにもまだ話せてなくて……」

「付き合って、しばらく経ってるのに……」

「私……してあげられてないこと……沢山、ありますよね。その……え、エッチなことだって……したいって言うってくれるのに……待ってもらったままで……」

「彼女なのに……このままじゃダメだなって……」

「だから……少しずつでも……願いを叶えられたら……と思いまして」

「その……先輩……今日も……」

「……しませんか？ 膝枕」

「はい……♡
ちよつとずつ……先輩に触れる、練習です……」

「……では、私のスマホ画面、
いいって言うまで……見てください……」

「……あ、心配ないです……
いつもの……安眠アプリですから……」

「そう、その調子……
この画面を……じいっと……じーっと……」

「よーく……見てて……
ぜったいに……目を離しちゃダメです……」

「何か……変わった感じはしますか……？」

「眠くなってきた……？ そう。いいんですよ……眠って……」

「うとうとして……何も考えられないですよね……？」

「いいんですよ……そのまま……頭の中……
空っぽにして……後輩彼女のお膝に……ごろーんして……」

「眠気を覚えたら、目を……そっと、閉じて下さい。そうです……」

「どうですか……私のお膝……」

「すべすべで、気持ちいいですか……？
……嬉しいです。最近、お肌のお手入れ頑張ってる……」

「……その、たくさん触れて欲しかったから……」

「いっぱい、いっぱい……膝枕で
とろーんって、気持ちよくなってくださいね……」

「よしよし……いいこ、いいこ……眠くなるまで、ずーっと、いいこ……いいこって……頭……撫で
てますから……」

「よし、よし……いいこ、いいこ……」

「私に……撫でられてる感覚と……私の……太腿の感触が……先輩の体を……満たしていきます
……」

「全身が……少しずつ……重くなって……ゆっくりと……指先から心地よく溶けていくような……そ
んな感覚に……身を浸して……」

「呼吸が……ゆっくり……深く……ふかーく……なっています……」

「だんだん……先輩の中で……疲れて硬く固まった心が……ゆっくり、ほぐれて……溶けて……
指先を通して……体の外へと……吐く息に合わせて……流れ出していきます……」

「疲れも……辛いことも、悲しいことも……全てが……流れ出して……その代わりに……安
らかに深い……とってもふかぁい眠りが……吸う息に合わせて……全身を満たして……心と体を
……優しく包んでいきます……」

「もう、何の不安も、怖いこともありません。ぬくもりと、安らぎだけが、先輩を包んでいます……」

「眠く……眠ーく……なっています……いいこ……いいこ……さあ……ねんね、しましょうね……
ふふっ……大好きですよ……せんぱい♡」

(声がだんだんフェードアウト)

//トラック2

(フェードイン)

「はあ.....はあ.....あん.....あ.....ん.....はあ.....ああ.....気持ちいい.....先輩、先輩.....ん.....あっ.....！ 指、止められない.....私、凄い濡れて.....ふあ.....ん.....ああ.....っ！」

「んう.....？ はあ.....ああ.....くう.....ん.....はあ.....はあ.....んう、んんう.....はあ.....はあ.....」

「.....起きちゃいましたか？ 今日は.....んっ、んう、ふう.....今日は、いつもより.....ん.....早いんですね.....」

「はあ.....ん.....んあっ♡

私.....うるさく、しすぎちゃいましたか？ ああ.....はあ.....ふう.....ん.....」

「あっ.....先輩に見られると.....私、あっ.....！ アソコが.....キュンってして.....凄くキツイ.....はあっ.....指、動かさない.....んふう.....あっ、ああんっ.....！」

「はあ.....はあ.....どうしました？ ああ.....んっ.....ああ.....そっか.....、先輩.....今、身動き出来ないですね.....♡ 怖いですか？ 可愛い.....。うふふ、大丈夫、心配いりません.....」

「先輩が動けないのはあ.....あっ、ああ.....さっき、見せた催眠アプリで、そういう風に.....設定したから.....です.....。催眠を解けば.....いつもみたいに、動けるようになりますからね.....」

「はあ.....ああ.....まだ、怖いですかあ？ 安心して.....くださあい.....ううん.....私が、安心させてあげます♡ キスしましょう.....舌を入れる、深いキスを.....」

(舌を出しながら)

「うふふ、べー♡ 私が、舌を先輩の口に入れて.....こうやってうごかひて.....ペロに絡めて、ちゅって吸ってあげまふう.....ペロ強めに吸われるの、好きでふよね？ 私が、全部やってあげまふからあ.....」

(キス)

「ちゅ.....んちゅ.....はあ.....じゅるるっ.....はあ.....んむっ.....ぷはっ、もっと吸ってあげます.....じゅるるるっ、じゅぷっ、じゅるる.....」

「はあ.....はあ.....目がとろんとしてる.....可愛い♡ はあ.....その目、好き、好き.....ああ.....また濡れちゃう.....指、グチョグチョ.....」

「どうしました？ もしかして、びっくりしてます？ 私が.....眠ってる先輩の上で、オナニーしてて.....うふふ.....そうですよねえ、びっくりしますよね、可愛いなあ」

「私.....起きてる先輩と.....キスしたこと.....ないですもんね.....突然、こんなことになってて.....ビックリですよ.....♡無口な後輩彼女が、彼氏を使ってオナニーしてたなんて.....ひいちゃうのも当然です.....♡」

「でも、大丈夫……はあ……あぁ……いつもみたいにい……また……ちゃんと……忘れさせてあげますからあ……目覚めたら、初心で処女っぽい、おしとやかな彼女に元通り、ですよ……♡」

「……だから安心して、先輩のことが世界一大好きな、淫乱彼女を楽しんでください♡
ふふ、またキスしましょう？ さっきより、凄いのしてあげます……
長くて、激しいの……舌、思いっきりだして……んあ……はむ……」

(キス)

「はあ……ちゅっ、じゅぷっ、れるるるっ、じゅるるるっ、はふっ、あむっ、んう、ちゅき、んう、
ふう、ちゅき、れるるる、ちゅき、れふう、しえんぱい、んうっ、じゅぷ、じゅるるるるる……ぷはあっ」

「あぁ……早く……先輩を気持ちよくしてあげたい……。おちんちん気持ちいいの我慢してる時の顔も……精子をびゅーびゅー出してる時の顔も……大好き、大好きい……早く見たい、精子欲しい……けどお……」

「んふっ♡ おちんちん、まだ硬くならないでしょう？ 催眠アプリの弊害で……気持ち良くて、なかなか反応出来なくなるんですって」

「いつも……気持ちいいのに、なかなかビュービュー出来なくて……もうイキたい、イキたいって、ぐずって泣いてるんですよ？ すごく可愛くて……母性本能くすぐられちゃいます……♡」

「おちんちんの準備が出来るまで……このまま……まず私の好きにさせて下さいね……」

(以下、耳を噛んだり舐めたりしながら)

「ん……はむはむ……んう……ぺろ……ちゅ……んふっ」

「可愛い声……漏れちゃってますよお、せ・ん・ぱ・い♡ でも、動けないから……どんなに気持ち良くて……逃げられませんかよ……んふふっ、はむはむ、ちゅるるっ……気持ち良くて、おちんちんが疼くだけ……楽になりたくても……まだ出せないし、快感から逃げることも出来ないんです♡
はむっ、れるるるっ」

「先輩……耳、弱いですよねぇ……んふふっ、んう、はむっ、じゅぷじゅぷ……この前、おちんちんを手で擦りながら、耳を責めたら……耳とちんこ一緒にダメって、いやいやして、泣きながら……
凄い量の精子、顔に飛ぶほど射精したんですよ？ はあ……可愛かったなあ……んんっ、はむはむっ、んううっ……！」

「ん、ふう……ん……はむっ、んう、先輩を、噛むの好きい……んっ、興奮しちゃう……はあ……あふっ……んう……私の指、もうエッチなお汁でグチョグチョ……はあ……指、早くなるう……あっ、ああんっ……！」

「んう……？ はむはむ……ちゅっ、ちゅぷっ、ははむはむ……ぺろ……くちゅくちゅ……こんなえっちなこと……じゅるる……先輩に恋するまで、したことなかったのに……んう……ちゅむっ……」

「はあ……はあ……付き合い始めた頃は、私……エッチな気分になると女の子が濡れるってことも……イクってどういうことかも、知らなかったのに……先輩が好きで、好き好き好き過ぎて♡
いっぱいエッチなこと勉強して、オナニーして……先輩とたくさん内緒のエッチして……もう、こんな

に濡れやすくなっちゃいましたあ……ああん……」

(息をかける)

「はむっ……ふー」

「んふっ……びくってしまいましたね……息掛けられるのって……気持ちいいですね……さっき、私……すごく気持ちよくて……膝枕しながら……濡れてたんですよ……」

「それなのに、太腿の匂い嗅ぐから……ドキドキしちゃった。私のエッチな匂い……気づかれちゃうんじゃないかって……」

「こんなにエッチな子だって知られて、嫌われたくない……太腿、性感帯だってバレちゃダメだって……緊張したら、なんだかゾクゾクして、また濡れちゃって……うふふ……私、バレちゃいけないってシチュエーション好きなのかも♡」

(息をかける)

「ふー……先輩、好き……んう……学校で……いつも、優しくしてくれるところ……ん、はあ……本当はお話したいこと沢山あるのに……上手く言葉が出ない私を、つまんないって見捨てないで……ちゅぱっ、好きって言ってくれたことも……はむはむ」

「んう……初めての恋人で……嫌われなくて、勇気が出ない私を……待ってくれる紳士なところも……はむはむ……はあ……はあ……」

「顔も……体も……はむっ、噛み心地のいい、耳も……んふふ、噛むの好き……噛むと……ん……興奮しちゃう……」

(息をかける)

「ふー……うふふ……ねえ、先輩。学校で私のこと……エッチな目で見てる時、ありますよね？ 私の……唇とか……おっぱいとか……スカートとか……太腿……じっと見てますよね？ そういう表情も好き……」

(息をかける)

「私も……エッチなこと考えながら、先輩のこと……ちゆるる……見てるんですよ……ふー……んふふっ、抱きしめられたいなあとか、キスされたい……舌入れられたい……おっぱい揉まれて……乳首舐められて……クンニされて……手マンされて……はあ……はあ……」

「勃起したおちんちんを……おまんこの奥まで挿れられて……子宮ガンガン突かれて……はむっ、れるるっ、ちゅっ、ちゅぱっ、濃ゆい精液い……全部ナカに出されたいって……はあ、はあ……！」

「いつか……いつか、学校でも……膝枕とかしたいし……もっとエッチなこともしたい……！ 周りの人にバレちゃいけないってなったら、私……すごく感じちゃうかも……！ はあ……はあ……」

「バレてもいいの……そんなことより、先輩にもっと愛されたい、はあ……たくさん好きって言葉でも、体でも伝えたいし……ああっ、ああんっ！ 恋人同士なんだから、何も恥ずかしくない、本当は皆に見せつけたい……！ 本当は、私は、先輩になら、どこで、何されてもいいの……はあ……はむっ、じゆるるっ、先輩……先輩……っ！」

「先輩の指、好き……本当は、私の指じゃなくてえ……いつか、先輩の指でイキたい……いつも……本当はあ……その指でぐちゃぐちゃにされたいって……想像してるんです……」

「はむっ、はむはむっ、はあ、はあ、ああ、先輩、好き……好き……ああっ、先輩の匂い……体温……感じながらイケるの……嬉しい……」

「あっ、あっ、イきそう……はあ、はむっ、んうっ、はあ、私今、おまんこがぎゅうって、私の指、締め付けてるんです……」

「指……三本挿れてるんですよ？ 先輩のおちんちん、太いから……指……三本じゃないと、満足出来なくなっちゃったんですよ……？」

「初めて……自分で指挿れた時は……一本でも痛くて……ちょっとでも奥に触ると……痛かったの……もう、三本でも足りないくらい……はあ……ああ……もう、おまんこがおちんちん覚えてる……もっと奥に欲しくて……あ、ああっ……！」

「……はあ……ああ……おまんこビクビクしてる……ああ……イク……はむはむっ、んうっ、ああ、イク……おまんこ締まるっ！ はあ……先輩の……ああっ、精液欲しくて締まるのっ、はああん……はあっ……あ、あうっ……んあ、あっ、あ、んんう……っ！」

「あああっ、気持ちいいっ、はむっ、ん、ちゅう、ちゅるっ、先輩の耳嚙んでっ、はあ、匂い嗅いで……ああっ……すごい、これ、キく♡ おまんこの奥にキチャいます♡ もう、クセになっちゃって……あああああっ！ ダメ、もう、イきます、イきますうっ……！」

（絶頂）

「はむはむっ、じゅるるるっ、はあっ、あああっ、先輩、せんばいっ！ 好き、好き、好き、大好きいいいっ、あああああああああっ！！」

「ああああんっ！ はあ、はあ、……ちゅっ……私……私の部屋でオナニーするより……先輩の前でオナニーする方が……ずっと気持ちいい……大好きな人に見られて……触れられて、いっぱい匂いがして……はあん……はむっ、ああ、ごめんなさい♡……お耳……ぺろっ、美味しいから……いっぱい嚙んじやいました……♡」

（息をかける）

「痛く……なかったですか？ よかった……ふー……うふふ……体、ビクビクってして……可愛い……れるるっ……ふー……うふふ♡」

「あ……♡ おちんちん……ちよっとおっきくなってますね？ ズボンの前が膨らんで、変な形になってる……」

「ふふっ、催眠エッチするようになって気付いちちゃったんですけど……先輩、学校で勃起してる時ありますよね？ バレてるのに、気付かれないように隠してて……可愛いなあって」

「そういう時、いつも私……机の下に潜って……皆に内緒でフェラしたい♡ って考えてるんですよ？ ううん、皆の目の前でもいい♡ イラマチオされてみたい♡ 勃起したおっきいおちんちんで、乱暴に口ジョポジョポされたい♡ 先輩となら……皆の前でセックスしたっていい♡ はあ……」

今すぐにでも勃起おちんぽとえっちなことしたいって、頭がいっぱいなんですう……」

「はあ……はあ……でも今は……誰にも邪魔されず、世界一カッコイイおちんちんと……いっぱいエッチなこと出来る……気持ち良くしてあげられるし……おちんぽで気持ちよくなれる……♡」

「だから……次は……二人で気持ちよくなりましょうね……」

「私、いっぱい奉仕しますから……いっぱい気持ちよくなって……私に精液……いっぱい……くださいね？ せ・ん・ぱ・い♡」

//トラック3

「じゃあ先輩、脱ぎ脱ぎしましょうねえ♪」

「ふふっ、先輩のおちんちんって、いつもこっち向いてますよね？ おちんちんって、いつもオナニーする手の方に曲がるって聞いたんですけど、本当なのかなあ？ いつも、こっちの手でシコシコしてるのかなあ……？」

「先輩がオナニーしてる場所、いつか見てみたいなあ……。エッチなこと……。私の為に待ってくれる先輩が、自分の性欲の為に、エッチなもの見たり、想像したりして、自分でおちんちん握ってシコシコ勃起させて射精してる場所……。見てみたい。私としての時とは別の……。えっちな顔してるんだろうな♡」

「でも今日は、私が全部してあげますね。いっぱい気持ちよくなって、だーいすきな射精、たっくさんしましょうね♡」

「まず、もっとおちんちんおつきくしないと……。ふふっ、先輩の好きなところ、私いっぱい知ってるんですよ」

「剥き出しの先端のところを、なでなでされたり、ぺろぺろされるの、好きですね。あっ、今おちんちん、ぴくってしました。想像しました？ ふふっ、でもだめですよ。まだ触ってあげません。だって、焦らされるの好きでしょう？ ほらあ、また感じて、ぴくぴくしてしまいましたね。はあ……。可愛い……。♡」

「まだ柔らかくって可愛い時に、おちんちん全部頬張って、口の中でペロペロって舐め回されるのも、好きですね。すぐにおつきくなって……。口いっぱいになっちゃって……。口から出さなくちゃいけない……。寂しいけど、いつも、とっても……。愛しいなって思って、至近距離から見ちゃうんです♡」

「そうだ。おつきしたおちんちんの裏側、根元から先端までゆっくり刺激されるのも、好きですよ。ねえ。おちんちんの裏の血管を、ゆっくり、やさしく、指先でなぞると、どんどん硬くなって、最初の頃、それだけで出しちゃったことあるんですよ♡ いつもと違う、こんな早くない、こんなのやだってぐずっちゃって……。はあ♡ 私のせいで我慢できなかったんですよ？ とっても嬉しくて、可愛くて、あの時、先輩のこともっともっと大好きになりました♡」

「振り返って浮き出た裏の筋を、根元から舐め上げるのも、反応いいですね。いつもビクンビクンっておちんちん凄く震えて……。手でちゃんと押さえてないと勝手に動いちゃうんです」

「ああ、そうだ。あと、おちんちんとタマタマの境目辺りを、舌先でくすぐると、エッチな声漏れちゃうんですよ」

「うふふ♡ 焦れったそうな顔してる……。可愛い、好き。じゃあ、今からおちんちんに触りますね。まず……。口いっぱい頬張っちゃいます」

(口に頬張りながら)

「んう……んふふ、全部入りましたあ……私の口いっぱい……この感触も……味も……らい好きい……このまま、おちんちん舐めますよ……じゅるるる……じゅるるる……んふう……おっきくなつて……ほっぺたに押し付けないと入らない……んふ♡ ほっぺたとか……上顎で擦りながら……いっぱい舐めてあげますね……ん……んう……れるるるっ、じゅっ……じゅるるる……んう……っ！」

（口から出して）

「ぷはあ……おっきくなって、もう、口に入りきらないですう……うふふ、さっきまでこっち側にぺたんって倒れてたのに、上を向いて来ましたね。はあ……♡」

「おっきくなる前のおちんちんも可愛くて好きですけど、筋が張ってくると……体がゾクゾクってしちゃいます。この逞しいおちんちんに……おまんこめちゃくちゃにされるの気持ちいいって思い出すから……」

「血管、ドクンドクンしてる……。こうやって、指先で、下から上になぞって……あんっ！ ふふっ、おちんちんが急に動いたから、驚いちゃいました。んふっ、焦れたいですか？ もっと気持ちよくなりたいですよ♡ ああ、苦しそうな顔も、大好き……。もっと見たあい……♡ ふふ、名残惜しいけど……お望み通り、うんと強くしちゃいます♡ 大好き彼氏さんに……もっともっと、悦んで欲しいですから♡」

「先っぽの柔らかいところ、手のひらで包んで……なでなでしてあげますね。それされるの、大好きですもんね？ 前に、これだけは教えてくれたんですよ……オナニーする時、よくこうしてる……って。こうでしょう？ はい、なでなで～」

「おちんちん、ビクンビクンしてますねえ……気持ちいいですね♡ 感じてる先輩、可愛い……もっとしてあげます。どんどんおっきくなって……はあ……おちんちん、いいこですねえ……なでなで、よしよし♡」

「先輩♡ どんどんおちんちん勃起出来て、素敵です♡ かっこいいですう♡」

「はあん♡ もうだめえ……手じゃ物足りない……匂いも味も感じたいですう……硬くてふと一いおちんちん舐めるの大好き♡」

（以下、舐めながら）

「裏筋、舐めますね。根元から……上に、んう～……カリのクビレのどこ、舐めますよお、れるるるっ……真っ赤な亀頭も舐めちゃいますね、ぺろっ……んう……まだお汁出てないですねえ……」

「我慢汁出てきたら、鈴口舐めてあげますね。先っぽは我慢汁と唾液でたっぷりヌルヌルにしてから、そっと舐められる方が感じますもんね。今は何もしないで……ちゅっ……また、下にいきますよ～……カリをまた舐めて……れるう……裏筋、舐めながら、した～……んう……ふふっ、根本の方、変わった匂いしますよねえ……この匂い、好き……えっちな気持ちになりますう、ちゅ……」

「先輩の好きな、タマタマのところ……舐めますね……れるるるる……はあ、可愛い声出ちゃいましたね♡ れるる……気持ちいいですね……おちんちんがビクビク動いて……んふっ♡ タマタマ、キュってなりましたよ？ 精液、上がったかな？」

（舐めるのここまで）

「おちんちん、手で擦ってみましょうか。あっ！ 触っただけなのに、凄い反応……嬉しいです……！ 握りますね……ふふっ、やっぱり……。これ……精液、おちんちんに上がってますよね？ 余裕なくなってきた時の顔、凄く色っぽくて……なんだろう、男の人なんだって本能でわかるの……見ただけで感じちゃいます♡」

（以下、舐めながら）

「手でコスコスしながら、タマタマのところ、もっとナメナメしましょうね。んっ……れるる……うふふっ♡ 可愛い……♡ れるっ……んう……ふふっ」

「今からおちんちん舐めていきますね……根本……んふっ、さっきより太くなってるう……はあ……裏筋も硬くなってますね……ゆっくりい……ちゅ……れる……舐めていきますね……舐めながら……手でコスコスして……ああ、そうだ……せ・ん・ぱ・い♡」

「手でタマタマ、優しくもみもみしますよ？ 裏筋……ちゅ……舐めて……全体を擦りながら……もう片方の手で、タマタマ揉みますからね……んう……ふふっ、気持ちいいですね～……カリの窪み、舌で一周しますよ……れるうっ……はうんっ」

「先輩、可愛い……んふっ、れるう……我慢汁出ちゃいましたねえ……エッチな匂い……ふふっ……鈴口舐め……るのは、少し後にしましょうか」

（舐めるのここまで）

「口で亀頭全体を愛して……長いサオを手で擦って……タマタマも可愛がってあげますね……鈴口を舐めるのは……ふふっ、いつにしましょうか……こんなこと言ってえ……今すぐしちゃうかも……」

「あんっ♡ 先っぽから我慢汁がとろとろって出てきましたあ♡ はあ♡ 私に舐められること考えて、エッチなお汁出してるんですか？ 先輩……先輩可愛い……好き……好きですう……はあ……フェラ、しましょうねえ……♡」

（以下、フェラしながら）

「ぐぶっ……じゅるるるるっ……んんっ……この味……好き……好きです……先輩から出るものは……全部美味しい、好きい……んんっ……」

「んふっ♡ 私の手に合わせて……お汁せり上がってくるう……あうっ、ちゅぱっ、はあ……我慢汁と……唾液で、おちんちん、滑りがよくなってきた……手、もっと早くしますね……あは♡……先輩、えっちな声♡ 早く扱かれるの気持ちいいですねえ♡ フェラで、もっとよくしてあげますね♡」

「んうっ……！ はあ、我慢汁……美味しい……好き、好き……もっと、もっとしますねえ……じゅるるるるっ、じゅるるっ、ぶじゅっ、じゅるるるるるっ！」

（フェラここまで）

「ぷはあっ、んう～……ふふっ、前にもそうやって、ぐずって……言っていましたよお……もう出るはずなのに、まだ出ないって……ふふ、アプリの弊害……もどかしいですねえ……焦らされて可哀想……可哀想……うふふ」

「泣かないで♡ もっと強く刺激して、あげますからあ……大丈夫、私が射精させてあげます。先輩が気持ちよく、ぜーんぶ出せるまで、私がずーっとご奉仕しますからねえ♡」

(以下、舐めながら)

「せ・ん・ぱ・い♡ヌルヌルの鈴口、なめなめしますね♡ほら、見て……れるっ、ちゅぷっ、れるる、んうっ……はあ……んふっ♡おちんちんがブルブルしてるう……気持ちいいですねえ……♡もっともっとしてあげますからね♡んう……れるれる、ちゅぱっ」

「んふっ♡カリが大きく、張ってきましたね♡ちゅっ、れるる……ふふっ、先輩が、興奮した顔で、私見てるう……れる……ぺろ……ちゅう、れろ、れろ……れるるっ」

「んうっ♡……はあ……れる……もう苦しい……？じゃあもう……ぜーんぶ出して、楽になりましょうね……」

「おちんちんゴシゴシして、ヌルヌルの先っぽなでなでしてあげる……さっきの撫で方とは違いますよ……も一つとねっとりした、えっちなやつ……先輩が感じるところだけ責めてあげますからね……いきますよ、せ・ん・ぱ・い♡」

「んんっ、んんんっ、んう、ああっ、そんなに、そんなに気持ちいいですかあ？はあ、おちんちんパンパン、我慢汁もどンドン出て……ふふふ……本当にいいこ……いいこですね……私の手に素直に感じて……そんな、泣きそうな可愛い声出してえ……私、とっても興奮しちゃいますう！」

(以下、耳を噛んだり舐めたりしながら)

「ふー……んふっ、ちゅっ、先輩……耳……好きですよ……はむはむっ……んうっ……おちんちん暴れてるう……はあ……ちゅるっ……気持ちいいですねえ……♡」

「はあ……はむはむ……好きです。スキスキ！先輩も……私のこと大好きなの知ってます。私とのエッチを待ってくれてるのも、私をいやらしい目で見るのも、学校で私から目を逸らすのも、好きだからですよ。私を見たら興奮して勃起しちゃうからなんですよ……？はあ……本当は私も、そのままオナニーしてほしいの、そのまま学校でエッチしたいんです♡でも恥ずかしいから、催眠エッチするしかないんです♡イケない先輩でごめんなさい♡だから今だけは、好き放題びゅーびゅーって射精して♡いっぱいいっぱい、気持ちよくなってください♡」

「あっ、もう出そう？出るんですね？まだだめえ、私の口に出して！全部飲ませてえ！」

(フェラ)

「じゅるるるるっ、んんっ、じゅるるるるっ！んう、出して、出してえ……んんうっ、んふっ、出るう……出……」

(射精)

「んぷっ！んんんんんんんんっ、んむっ、んんんんんんんん、ふうんっ、んんんんんんんんんんんんんんっ！」

「ぐくんっ……はあはあ……全部飲みましたよ……先輩の精子……すごく量があって……濃くて、喉に絡んで……飲み込むの大変でしたあ♡」

「ほら、ベー……んん、まだ喉の奥に残ってて……きゅんってしちゃいます……♡」

「こんなに凄い射精出来て……先輩、カッコいいです♡」

「ふふっ、本当は耳の中、ぺろぺろしながらおちんちん触ると.....すぐ我慢できなくなってイっちゃうんですけどね♡ それ知ってるから、耳責めないで、焦らしちゃいました♡」

「感じてる先輩大好き、イってビクビクしてるおちんちんも、精液も、いった後の顔も全部好き、スキスキずっと私だけのものですよ♡」

「はあ、好き♡次は私のおまんこに射精して♡ 喉にしてみたいに、おまんこの奥の子宮にザーメンぶっかけてください♡」

//トラック4

「んー、ちゅっ♡先輩かっこいい♡スキ、ちゅっ♡スキですう♡ちゅっ♡勃起おちんぽ太くて硬くて大きく♡精子が熱くて濃くてドロドロ♡はあ.....♡スキスキスキ♡ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ♡」

「感じる顔も、イってる時の声も、好きです♡可愛くてえ♡ちゅっ♡ぐずったり、泣きそうな声出したり.....♡ちゅっ♡気持ち良すぎるんですね？でも、気持ちいいの大好きなんですよ？私に気持ちよくされて、びゅっびゅって射精するのが好きなんですよ？だから、いつも、焦れて泣いちゃうんですね？」

「はあ、好き♡早く出ちゃう時も、なかなか出なくて泣いてる時も好き♡先輩が気持ちよくなって射精するのが好き♡私、先輩が射精したってことが嬉しくて、愛しくて、いつもキュンキュンしちゃうんです♡」

「うふふ♡ちゅっ、スキ♡スキだから、今日も精液全部、空っぽになるまで出させてあげますね♡先輩の子種、ぜーんぶ私にくださいね♡」

「ふふっ、おちんちんって、勃起してる時はかっこよくて、フニャフニャの時は可愛くって.....どっちも好き♡んふふ、ぜーんぶ口に入れてえ.....いっぱいペロペロして可愛がってあげます♡」

(口に頬張ったまま)

「んむっ、れるるるるっ、んうっ、先端のツルツルのところ、んむっ、ほっぺたの内側で擦ると、おちんちんビクビクしますねえ.....♡んふっ、可愛い♡」

「んっ、んんっ、れるるっ、んんんっ、ぺろぺろぺろ、ぷはあっ」

(口から出して)

「もう口に全部入らなくなっちゃいました♡いいこいいこ.....ちゅっ♡はあ.....♡このままフェラで.....もっとおつきしてあげますね♡」

(フェラ)

「じゅぷっ、じゅぷっ、んんふっ♡大きくなって.....じゅぷっ、きたあ.....んむっ.....もっと.....じゅぷっ.....根本まで.....じゅるるっ.....全部う.....じゅぷじゅぷ.....舐めたい.....じゅるるる、じゅるるる.....！」

(舐めながら)

「んんっ.....んふっ、裏筋.....血管浮き上がってえ.....かっこいい.....♡裏筋.....舐め上げますねえ.....タマタマから.....れるるるっ.....んうっ♡さっきより、匂いが濃くなってる♡可愛がってあげます♡れるるるっ、ぺろぺろ、ちゅむちゅむ.....」

「あ.....♡もう我慢汁出てます♡はあ.....私に舐められて.....射精したくなってくれたんですね♡」

(フェラ)

「じゅるるるっ.....じゅぷっ.....じゅぷっ.....我慢汁と.....じゅぷっ.....唾液を混ぜて.....こう

やって……じゅるるるっ……おちんちに塗り広げて……じゅるるるっ、じゅぷじゅぷ……んう……すごいエッチな匂い……♡」

「はあぁっ♡ もう我慢出来ない……先輩……セックスしましょう？ 大丈夫、私が上になって、全部してあげます。私のおまんこで、おちんちん、ちゃんと気持ちよくしてあげますからね……♡」

「ふふふ……見て……？ おちんちんの先っぽが……おまんこの入り口に当たって……はあ……私達のどろどろで涎みたいにお汁が合わさって、グチュグチュっていやらしい音がしますね……」

「はあ……ん……このまま、挿れますからあ……見て……私があ……太いおちんちん、おまんこに挿れるところ……こんなおつきいおちんちん、ちゃんと全部……根本まで……私、受け入れられますからあ……」

「ああああんっ！ 入ってきたあ……は……あっ、もう少しで、私の好きなところ……カリがここ通る時、好き、好きなの……ああああああああんっ！！」

「好き、好き……ああああんっ！ おまんこの入り口が……根本の太いところに広げられてるう……はあ……最初の頃、痛くて……入らなかったのが嘘みたい……こんなに、擦れてえ……はあんっ、太くて、気持ちいいのにい……！」

「はあ……あ……んっ……そろそろ全部ですよ？ 私もう、奥も痛くないんです……！ 初めての時は……こんな奥……痛くてダメだったけど……今は……奥が一番好き……！ このおちんちんが、全部入らないと届かない……奥が好きなんですう……指じゃ届かないところ……あぁっ、もう少し、来て、来て、あっ、届く、先輩のおちんちんが、奥に当たっちゃう！」

（絶頂）

「ああああああああんっ……！！」

「はあ……はあ……挿れただけなのに……軽くイっちゃった……おちんちん……気持ち良すぎますよお……」

「はあ……動きますね……まずは前後に腰を動かして……はあ……ああんっ……！」

「ああ……そうだ……上、脱がないと……大丈夫、腰、止めませんから……はあ……んっ、んっ……！ はあ……っ、脱げた……んっ、ああんっ……ブラも……外して……ふうっ……」

「んふふっ♡ 私のおっぱい見たら、またおつきくなりましたね♡ 嬉しいですう……♡ はあ……あっ……先輩に見られて……乳首もっとなめちゃうう……♡」

「乳首、あんっ、疼いてますう……乳首、弱いんですっ、感じるからあ……弄りたいい……けどお……そうしたら、腰早く動かせなくなるからあ……我慢して……おちんちんに奉仕しますう……んっ、んうっ、はあんっ……！」

「あぁっ、はあんっ♡ おちんちん気持ちいい♡ あぁっ、ああああんっ♡ はあっ、先輩が、おっぱい見てるうっ♡ はああんっ♡ 気持ちいいっ、おまんこキュンキュンして、締まっちゃうう……はあ……感じるうっ……！」

「んんっ、はあんっ、動き方変えますね。上下に、ピストン、しますからあ……んっ、手、繋がせてください……！」

「はあ、先輩の手、おっきい、あったかい、好き、指、太い.....この指で、私の体、全部、口の中も、おまんこの奥まで、触られていじられてみたい.....！ いつか.....手マンで、グチュグチュされて.....イキたいなあ.....！」

「はあっ.....！ 動き、上下に、変えますよ.....！ どうですか！？ ピストン.....んっ.....おっぱい、もっと揺れちゃう.....んふふっ、先輩、おっぱいに釘付けですね♡ ふふっ.....嬉しい♡」

「これやると、.....私のおっぱい、エッチな目で見てくれるからあ.....好き.....♡ 見て♡ いっぱい見て♡ おっぱいも、乳首も.....全部、先輩専用だからあ♡はあ.....ああっ、おちんちんっ、凄く硬くなってるう！ 気持ちいい、いいいいっ！」

「はあ、はあっ、おっぱいだけでなく.....下、下も見て♡ 私達が、エッチしてる場所♡ おちんちんが、おまんこ、出たり、入ったりしてる場所♡ んふふっ、、ふふっ、すごい興奮してる顔してる♡ 私のエッチなところ見て、本当にセックスしてるんだって♡ ムラムラしちゃってるんだ♡ うふっ♡ 顔が真っ赤ですよ♡ その顔スキスキスキいっ！」

「はあ、ああっ、気持ちいい、気持ちいいっ！ ずっと、これが欲しかったの.....！ 学校にいる時間も、先輩のおうちに入った時も、膝枕してる時も、オナニーしてる時も、ずっと、エッチなところ見られたかったあ、おちんちん欲しかった、先輩とセックスしたかったっ、はああんっ！」

「私の心も体もっ、おまんこもっ、おちんちんが忘れられないのっ、いつでもっ、家に一人でもっ、おちんちん忘れられなくて、いつも、先輩のこと考えて、エッチしたいって考えちゃうのお.....！」

「はあっ、ああっ！ 好きっ、好きいっ！ ああっ、もうダメ.....あ、はあんっ.....！」

「はあんっ！ 体勢、変えますねっ！ 先輩の上に寝て、全身ぴったりくっつけて、お尻、クイクイ動かして、おちんぽっ、気持ちよくしますねっ！」

「先輩っ、先輩いっ、はあっ、密着エッチ、気持ちいい♡ んんっ、腕、曲げちゃいましたけど、痛くないですか？ 手の上に、おっぱい乗せて.....んっ、んっ♡ こうやって♡ おっぱい♡ 先輩の手で触ってもらいたくてえ♡」

「はあんっ、気持ちいいよおっ！ もっと腰、振りますね！ はあ、はあ、いっぱい、いっぱい.....気持ちよくなって、もらえるようにい.....！」

「んんんんっ.....♡ おちんぽ、おちんぽビクンビクンしてるうっ♡ 先輩、気持ちいいんですね♡ おっぱい触って、耳に息、はあ、はあ、掛かって、おまんこでおちんぽ擦られて、気持ちいいんですね？ はあっ、先輩スキスキスキ♡」

(耳を嚙んだり舐めたりしながら)

「はあっ、あむっ、はむっ、ちゅっ、れるっ、ああああん.....っ！ ああっ、私のナカでおちんぽっ、凄くなってるっ.....！ はあっ、おちんちんに、精液来てるんですね？ はあ、はあ、おっきくて、奥、子宮まで、コツコツ当たってるうっ！ 太くて、熱くてえ、ああっ、おちんちん、全部、全部気持ちいいよおっ、はあっ、こんな凄なおちんぽ挿れられたら、女の子みんな、頭おかしくなっちゃいますよお！」

「ああっ、先輩の匂いするうっ！ はむっ、れるるるっ、はむはむっ、じゅるうっ、れるるるっ、ちゅっ、ちゅっ、はあ.....はあんっ.....♡」

「はあ♡ いつか、学校で、すごいえっち、しましょうね♡ こんなおちんちん見たら、女の子達皆、先

輩のこと大好きになっちゃいますよ♡ はあ……はむはむ……れるるるっ……皆の前で、エッチして……先輩のおちんぽはあ……こんなにすごいんだって、見せつけちゃいましょうね♡」

「はあ……はあ……ああっ……！ もうだめえ、私もうイク、イキますうっ♡ おちんぽが気持ち良くて♡ 良すぎて♡ 先輩のおちんぽしかわかんない♡ ああっ、イク、イっちゃううっ、ああっ、先輩、先輩いつ……！」

（絶頂）

「ああああああああああんっ……！！」

「はあ……はあ……ああ……おまんこ痙攣して……る……けど……動く、動くのおっ……はああああっ！ イったばかりのおまんこ、バキバキちんぽで、擦るの、気持ちいい……！」

「ああああっ！ 先輩♡ 先輩♡ 大好きだから、頑張れるの、好きっ♡ ちゅっ、れるるるっ、はむっ、ああんっ、おまんこ締まるうっ、腰止まらない、またイっちゃううっ……！」

「んああっ！ あ、はあ、はあんっ……イキそうなんですか？ 嬉しい、嬉しいスキスキスキ♡ 精子、子作り赤ちゃん汁、ナカにもらえるんだあ♡」

「あれえ？ どうしたんですか？ はあん……ナカ出し、怖いんですか？ 赤ちゃんデキちゃうから？ はあ……可愛い♡ 責任感あって、優しいところ、好き♡ 先輩だけが好き、もうあなた以外いない、スキスキスキ♡」

「せんばあい♡ ペろペろペろ……はあ、はあんっ、大丈夫ですよ♡ ナカ出し怖くないですよ？ 忘れちゃったんですか？ 私達、恋人なんですからあ……ふふっ、ちゅっ、ちゅぱっ」

「恋人だから、赤ちゃんデキていいんですよ♡ 私、欲しいです……先輩の赤ちゃん♡ だから、出して、出して、精液っ、赤ちゃんのタネいっぱい、濃厚精液、ナカに出してえっ……！」

「ああっ、あっ、もうだめ、だめえっ、またイっちゃううっ、先輩、私またイキますっ、せ、せんぱいもいっしょ、一緒にい……あああっ！」

（以下、絶頂）

「あ、ああああああああああああんっ！！」

「あっ、ああっ！ ちんぽビクビクしてるうっ……！ 来るっ、精液っ、生おまんこに射精されちゃううっ……！」

「あああああああっ、精液出てる、熱い、あああああっ！ 濃い、濃い、あああああっ！ また出てっ……！ ああああっ、多い、多すぎっ、ああっ、気持ちいいっ、またイク、イっちゃううっ！！」

「ああんっ、いやああああああああああああっ！！」

「あああああっ！ やああっ、私、潮吹いちゃっ……！ やだ、お汁止まらな……あああんっ、ぷしゃあって、出ちゃう、やだ、やだ止まらないっ、また出ちゃう……ごめんなさい、あ、ああ、やあああっ……！」

「あああああああああああああああっ……！！」

(間)

「はぁ.....はぁ.....ナカだし射精.....とっても気持ち良くて.....かっこよかったです.....♡ 先輩のこと.....またもっともっと好きになっちゃいましたぁ♡」

「うふっ♡ 眠そうですね.....いっぱい射精して、気持ち良くなって、疲れちゃいましたね♡ 可愛い、スキスキ、ちゅっ、ちゅっ、このまま眠って.....そして.....ぜーんぶ忘れて.....」

//トラック5

「先輩の体、綺麗に拭いたし……。服も元通り。後はまた膝枕して……よしよっと」

「ふふっ、ぐっすり寝てる、可愛い♡ キスしちゃおう♡ ちゅっ……じゅっ……じゅるっ……ちゅぶ
ちゅぶ……ちゅ……はあ……好き……ちゅっ……はあ……んっ……♡ ちゅるるるるっ……ぶ
はあっ」

「うふふ、可愛い♡ いいこいいこしちゃいます♡……」

「なで……なで……よし、よし……」

「ふふ、先輩が覚えてないから……大胆になれるんだけど……
いつかは、催眠なしの先輩と……エッチ出来たらいいなって思ってるんです……」

「私……頑張るので……だから……そのうち……
ありのままの私も……受け入れてくれると……嬉しいです……」

「なで、なで……いいこ……いいこ……」

「先輩を包んでいた眠りの膜が……ゆっくりと開いてきます……まずは音……それから光……先
輩の意識は、目覚めに向けて浮上していきます……」

（間）

「おはようございます……先輩……よく眠れましたか？」

「よく眠りすぎて、少しだるい……？ あの……大丈夫ですか……？」

「……ちょっと、やりすぎちゃったかな……」

「あ、いえ……こっちの話です……気にしないでください……」

「なるほど……心地よい疲れ、ですか……。どんな夢を見ましたか？
なんにも覚えていない……。それだけ……よく眠れたんですね……よかった……」

「……あ、あの」

「その……お疲れかもしれないですが……
一つ、お願いを聞いて……もらえますか……？」

「……先輩と……き、き、……キスが……したい……です……」

「……あ……えと、その……見たら、したくなったというか……」

「——ちゅっ」

「……わ、忘れてください」

「えっ……ほっぺじゃダメ……？」

「わ、わかりません……キスなんて……
したことないですから……どうしたらいいのか……」

「いえ……は、恥ずかしいですけど……嫌じゃ……ないです……
私が……望んだこと、なので……」

「え……目を、閉じる……。……は……はい……。こう、ですか……？」

(キス)
「ちゅっ……ん……ちゅうっ……」

「い、今のが……キス……。は……恥ずかしい……！」

「嫌なんかじゃ……う、嬉しいです……。
私の……ファーストキス……先輩とで……本当に、嬉しいです……」

「もう一度……。こ……今度はもっと凄いキス……。？ そ、そんな……」

「あ……いえ……ただ、恥ずかしくて……は、はい……もう、黙って、目を閉じてますので……後は
……お任せ……します……」

(キス)
「ちゅっ……あ、やっ……舌……が……あ……ちゅるるっ、んんっ、ちゅるるるっ」

「ちゅう……れろ……んっ……あ……」

「ん……ふう……ちゅっ……ちゆく……ぷはあっ……♡ ああ……♡」

「はあ……はあ……
キスの感想……ですか？ えっと……気持ち良くて……その……」

(モノローグ)

「はああん……♡先輩から舌入れられるの初めて♡ キスされる側ってこんな苦しいんだ♡ いつも以上に先輩の匂いがして♡ 息がかかって♡ 先輩の味がたーくさんして♡気持ちいい♡好き♡無理やりペロチューされるの大好き♡ えへへ……♡」

(肉声)

「……ふふ♡
先輩のこと、もっと好きになりました。私……幸せです……♡」

「あっ……♡ 先輩の腕の中……あったかい……。なんだか、安心します……」

「先輩、好きです……。私、あなたの彼女になれて……本当に、よかった……」

「本当に、本当に……あなたの為なら、死んだっていい……」

「うふふっ、大きなあくび……。また眠くなっちゃったんですね」

「でしたら……もう一度、膝枕しませんか？
私のお膝は……先輩専用なので……いつでも好きに使ってください……」

「ん.....しょ.....。
ふふふ、そんなに私の膝枕、気に入ってくれたんですね」

(妖艶に)

「よかった.....私のお膝でリラックス出来たなら.....
とっても.....嬉しいです.....♡」

「これからも、私がいっぱい癒してあげますからね♡
.....だ〜いすきです♡.....せ・ん・ぱ・い♡」